

桐光会へのお礼メッセージ(2015年度第1期)

#1

この度は桐光会奨学生に採用して頂き、本当にありがとうございました。私の家庭は母子家庭で、母は難病を患い、働くことが困難な中で働いていました。私は小学校教員を目指しており、無事来年度には東京都の教員として採用されることとなったのですが、学納金を納めることが難しく、無事に卒業出来るか不安でした。そのような中で、奨学生に採用して頂き、学納金を納めることができました。学生生活もあと半年程度しか残されてはいませんが、多くのことを学ばせていただいた目白大学でこれからも学べることを嬉しく思います。これから小学校教員になる前の準備や卒業論文等で忙しくなりますが、残りの学生生活も桐光会奨学生として一層の努力をする所存です。桐光会の皆様、そして相談に乗って下さった学生課の職員の皆様、本当にありがとうございました。

児童教育学科奨学生本人

#2

この度は、桐光会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。今夏に家業が倒産し、母も保証人となっていたため、最終学年であるのにこのまま大学を続けることができるのかと不安の中におりました。しかし桐光会奨学生に採用して頂いたことにより、無事学納金を納めることができました。心より感謝しております。おかげさまで、今後控えている就職活動や国家試験の勉強により一層努めることができます。お力添えを頂いた以上、必ず国家試験に合格し、将来立派な言語聴覚士として社会に貢献していけるよう頑張りたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

言語聴覚学科奨学生本人

#3

この度は桐光会奨学金制度に採用していただき、誠にありがとうございました。2011年3月11日、あの震災、あの揺れ方で不安だった10号館9階、あの日から4年経ち、勉学にサークル本部団体活動に精力的に参加し、今年是最終学年となりました。母子家庭ということもあって、1年毎に金銭的に余裕が無くなっていき、学納金に間に合わない状況でした。少ない空き時間で働く収入では、とても足りません。「学納金が間に合わなければ卒業できない。」そんな状況の中、桐光会奨学金制度を知りました。桐光会の方々が落胆されぬよう、これから気を引き締めていきたいと思っております。大学の事務職員の方々に深く感謝いたします。これからも桐光会奨学金制度が意味のあるものであるよう願っております。最後に繰り返しにはなりますが、桐光会奨学金制度に採用させていただき、ありがとうございました。

心理カウンセリング学科奨学生本人

#4

この度は、桐光会の奨学生として採用して頂き誠にありがとうございます。最終学年である4年生となり、卒業論文の執筆という大事な時期に、家庭の事情で経済的に困難な状況になりました。アルバイトを増やさなければいけないと悩んでいた時、桐光会の奨学金制度のことを知り、御支援をして頂くことになりました。卒業後は、この目白大学の卒業生として恥じぬよう、社会の一員として日々努力して参ります。本当にありがとうございました。

人間福祉学科奨学生本人